

全国協議会 ニュース

2024年6月1日発行 第382号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

「白血病と言われたら」 医療施設に贈呈

東京マラソン 2024 チャリティのホスピタリティのひとつとして病初期の患者さんとその家族のためのハンドブック「白血病と言われたら」を全国各地の医療施設や患者会など約 50 か所に 250 セットを贈呈しました。医療施設では患者さんへの説明資料として、また、待合室に置いて患者さんにご覧いただくなどしてご活用いただいています。石川県での贈呈の様子をお伝えします。



お力になると確信しております。

このハンドブックは現在第6版ですが、医療は日進月歩で発展していますので2025年度中の発行を目標に第7版を企画中です。その折には、関係者の皆様にはお力添えをよろしくお願い申し上げます。隠れたベストセラーと言われるほどのハンドブックですので、ご期待ください。(理事 川下勉)

ハンドブック「白血病と言われたら」の上巻下巻各10冊を、金沢大学医薬保健研究域医学系血液内科学 宮本敏浩教授に手渡しで寄贈することが叶いました。寄贈先として推薦をいただいていた血液疾患の患者会 萌の会の和田真由美代表と俵智登美さんに同行していただきました。宮本教授には大変お忙しい中、快く受領していただき感謝申し上げます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会は東京マラソン 2024 チャリティ事業寄付先団体であり、チャリティランナーのご寄付によって実現した企画です。チャリティランナーによる患者やご家族の皆様への思いが詰まったメッセージカードが添えられており、病気に向き合っている皆様にとっては必ずや、

田中重勝副会長 造血細胞移植功労賞受賞

第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会において、田中副会長が造血細胞移植功労賞を受賞しました。この賞は日本の造血細胞移植の発展に永年貢献した方に贈られるものです。

もせずに病にかかれた患者さんです。今回の受賞は、患者、ボランティアの皆さんを代表しての受賞ですので、すべての患者さんが移植医療等を受けていただくことができることを願って、今後とも活動をしていきますと申し上げました。

(田中重勝)

今年日本で同種移植が始まってちょうど半世紀とのことで、第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会では同種移植開始50周年記念シンポジウムが開催されるなど、記念すべき会でした。この総会では都立駒込病院 名誉院長の坂巻寿先生と、医師でない私に「造血細胞移植功労賞」が授与されました。今総会の会長である谷口修一先生は、記念シンポ



ジウムのなかで、「ドナーがあって初めてできる医療だ。こうした初心を忘れないよう、若い医師の方々には是非とも日頃の診療に励んでほしい」とお話をされてきました。こうしたこともあって、日本で移植医療が発展してきた根底には多くのボランティアの運動があり、多くのドナーにより支えられていることから授与されたものと思っています。また、この運動の元は、予期

東京マラソン 2025 チャリティ

全国骨髄バンク推進連絡協議会は、東京マラソン 2025 (2025年3月2日(日)開催) チャリティに寄付先団体として参加いたします。選定方法など

は6月下旬頃に発表されます。詳しくは当協議会のホームページをご覧ください。ご寄付は血液難病患者さんの支援活動に役立てられます。皆様のエンターを心より待ちしております。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDFP(5月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2024年4月末現在)

	3月	4月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	2,544	3,486	555,442	962,573	
患者登録者数	194	168	1,593	68,754	
採取数	骨髄	57	58	—	26,416
	末梢血幹細胞	27	30	—	2,147
	合計	84	88	—	28,563

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■4月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/800人、献血併行型集団登録会/2,639人、集団登録会/0人、その他/47人

■4月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,603人/20代 93,373人/30代 136,350人
40代 213,720人/50代 107,396人

■4月の20歳未満の登録者 836人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟総会



4月24日(水)衆議院第一議員会館で骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟総会が開催されました。

議員連盟総会では、議員連盟の令和5年度決算報告があり、了承されました。

次いで昨年11月の議員連盟総会で議決された5項目について、政府の対応と令和6年度関連予算について、厚生労働省移植医療対策推進室から、各項目について詳細な報告がありました。

ドナー休暇制度の取り組みについて日本骨髄バンクから報告がありました。

参加議員からは、さい帯血採取や骨髄バンク・さい帯血バンクなどへの保険点数については、関係学会からの保険点数増額の要望がないと難しい、どのようになっているか等の質問が出され、日本造血・免疫細胞療学会の副理事長からは、改めて学会理事長、社保委員会に状況を確認し要望したい、

などの応答がありました。

また、献血に関する現状については、厚生労働省血液対策課及び日本赤十字社から報告があり、参加議員からは、少子高齢化が進む中、今後、5年後、10年後の見通しと対策が必要ではないか、危機感をもった国民へのアピールが足りないのではないかと、などの活発な議論がありました。最後に議員連盟として、献血推進を議連として取り組むための「骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟」と改称することが決定されました。今後とも議連として決議事項の実現のため努力しようとして取りまとめられました。

(理事 山崎裕一)

THE BANK 2024 大阪で開催



(左: 荒井 DAZE 善正さん 右: 永野芹佳さん)

荒井 DAZE 善正さん率いる SNOWBANK 献血プロジェクト第3弾は東京13か所、大阪12か所、群馬3か所の献血ルームで2月17日(土)

よりスタートしました。

献血受付時に「SNOWBANK 献血で来ました」というワードを伝えた方、またはドナー登録された方に限定ステッカーがプレゼントされました。そして最終日の3月20日(水祝)春分の日、大阪 GORILLA HALL OSAKA にて音楽イベントが行われ、会場横で献血併行型ドナー登録会が実施されました。

当日は風がとても強く、雨も時折降り、テントが飛ばされそうな天候でした。ホールでは熱いライブが繰り広げ

られ、DAZE さんやスタッフの方がステージで皆さんに献血と骨髄バンク登録への参加を呼び掛けました。大阪府の献血推進ガールの NMB48 永野芹佳さんも昨年同様 PR に来てくれました。そのおかげで献血に81人、ドナー登録は28人と多くのご参加がありました。全国から集まってくれたファンの皆様で、ドナー申込書にさまざまな住所を書いてくださり「〇〇県からですか!」とお話も弾みました。既にドナー登録されている方も多かったです。寒さに負けない熱いお気持ちにとてもうれしい1日でした。

(関西骨髄バンク推進協会 浅野祐子)

名古屋市の取組について ～骨髄バンク啓発ソング「つなぐ」を制作～

名古屋市では骨髄バンクの推進のため、骨髄バンクドナー登録会の開催や啓発ポスター・クリアファイルの制作・配布をはじめとする様々な啓発を実施しています。若い方に骨髄バンクを知っていただきたく啓発の一環として、愛知県在住のシンガーソングライター心悠-みゆ-さんに骨髄バンク啓発ソング「つなぐ」を制作していただきました。

シンガーソングライターの心悠-みゆ-さん自身が作詞・作曲・歌唱を行っています。タイトルの「つなぐ」には、ドナーから患者へ、そして患者の家族

や周りの人々へと幸せが繋がっていくという意味が込められています。ミュージックビデオには曲のタイトルをイメージした画像やレコーディング風景などが取められています。

愛知県学生献血連盟のアンバサダーも務めていらっしゃる心悠さんは、「少しの勇気で大きな命を救うことが出来ること、そして一人でも多くの患者さんに希望を与えたいという想いを込めてこの楽曲を制作しました」と話されていました。

多くの方にご登録いただき患者さんへ命の贈り物が届くことを切に願って



います。

(あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)



心悠-みゆ-
公式 YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/@miyu_ch

長野募金箱設置作戦



(写真提供：諏訪市民新聞)

全国ドナー登録最下位だった長野県。今では44位まで順位も上がり、数を競うようなことではないのですが長野県のドナー登録者をもっと増やしたいと願ひ続け何年経つのでしょうか…。啓発活動も活動費がなかなか集まらず悩み続ける全国各地の団体の方々に提案です。今までは賛助会費や県からの助成金で活動していましたが、やはり会費をわざわざ振り込みに行くのはなかなか

か難しいとの意見もちらほら。私たちは募金箱をお寺や企業、お店などに設置してもらう活動を開始しました。集まったお金は活動費、そして一部は「佐藤きち子基金」に寄付をし続ける予定です。

きっかけは私が闘病の際に同室だった病友仲間です。白血病で26歳で亡くなってしまった尚美ちゃん。移植はお兄さんとHLAの型が合わずに骨髓バンクのドナーさんから。移植はできたものの拒絶反応がひどく出てしまい、虹の橋を渡りました。一緒に病友と闘っていた彼女は、生きていたら今はひまわりの会で一緒に活動していたでしょう。当時私は弟と型が一致し尚美ちゃんに「お姉ちゃんは弟と型が合い良いなあ」と言われたことが今でも忘れられません。当時は私だけ助かり

私は自分を責め、尚美ちゃんのお母さんにも会うのが辛かったです。しかし尚美ちゃんが私を動かしているのか尚美ちゃんの菩提寺でもある「寿量院」さんから度々寄付金を頂くようになりました。そして寿量院さん自ら募金箱を設置したいと提案があったのです。たまたま協議会の方からも募金箱の提案があり繋がりました。今では尚美ちゃんのお母さんも一緒に活動をするようになり尚美ちゃんとの約束が果たせた気がして私のやる気がまたパワーアップしました。寿量院さんの繋がりで今では約40か所の募金箱設置に至ります。これは全国に広めたい活動だと思います。皆さんも是非取り入れてはどうでしょうか？ 今後とも長野県頑張ります！

(骨髓バンク長野 ひまわりの会 笠原千夏子)

説明員研修4年ぶりの開催

3月21日(木)午前、徳島県主催による「骨髓バンク説明員研修会」が開催されました。

新型コロナの影響により4年ぶりの開催となり、今回は説明員と保健所職員のフォローアップや過去に受講された方への資格再取得の機会を主な目的とし、若年層への対応として県内の主な大学のボランティア部等に対しても案内していただき、普及啓発と説明員への呼び水としても期待しました。講師は日本骨髓バンク地区普及広報委員でもある、私、池田が担当させていただきましたが、実際に骨髓を提供したことのある説明員からの体験談や移植を受けて元気になった元患者として全国協議会の山口明大理事からの体験談を織り交ぜながら、ドナー登録を受け付ける際の説明内容や流れ等について講義を行いました。

結果的には、再資格取得の機会としては残念ながら期待が外れ、若年層の参加者もごく僅かとなりました。しかし、大学生の1人が説明員を目指してくれて、去る4月27日(土)に献血ルームで実地研修を終え、学内での登録会などで活躍してくれることを願っています。徳島では、献血会場での説明員

活動が停滞している状況もありますが、若年層の献血離れも見逃せない課題となっています。3月13日(水)に開催された徳島県骨髓バンク推進協議会でも、ドナー登録の前段として若年層に献血を呼びかけることが必要として、献血と一緒に骨髓バンクを普及啓発していく方針で一致しました。若年層への献血と骨髓バンク呼びかけと



説明員の皆さまの今後の活躍が徳島の大きなポイントになりそうです。

(とくしま骨髓バンクを支援する会 池田良一)

シリーズ 「ありがとう桜」④

2008年に骨髓バンク移植10,000例、さい帯血バンク移植5,000例到達を記念して、私たち釧路骨髓バンク推進協会も、2009年春、「エゾヤマザクラ」2本を、釧路市役所前庭に植樹させていただきました。

小指ほどの太さだった、頼りない桜の木が15年たち立派に成長し、今年も花をつける季節となりました。

5月3日(金)、日



本で一番遅い開花宣言がされて、ありがとう桜も無事開花しましたが、見頃は悪天候で、写真では既に葉桜となっています。

ドナーさんの造血細胞が患者さんに無事根付くことを祈りつつ、あの日植えた桜たちは、大地に根付き大きく育ち、毎年美しい花を咲かせてくれています。この桜たちのように、どうか一人でも多くの患者さんに造血細胞が根付き、人生がつけられていくことを祈りつつ、桜たちに「来年もまた」と声をかけ帰宅しました。

(釧路骨髓バンク推進協会 小川真理)

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

兵庫

姫路のフラダンスチームが 骨髄バンク活動に協力!

3月24日(日)に「プメハナフラスタジオ」のホイケ(発表会)がアクリエひめじで開催されました。チケットは発売3週間で完売、会場は700人満席の状態です。

今回のホイケのテーマは「ハワイ文化と日本文化の融合」で最初は、能管(横笛)(一管 揉ノ段)から、そしてカヒコで始まります。

会場内は神秘的な風囲気になりました。そしてハワイより1990年メリーモナークフェスティバルのミスアロハ



を獲得されたすばらしいアーティスト「ナタリー・アイ・カマウウ」の素敵な歌声と日本のアーティスト「ナーレイ」のユニークなお話と生演奏で2時間にわたり、フラダンスとともに優雅な時が流れました。

また、受付では、ギフトオブライフと献血の冊子を配布していただき、会場内では募金箱を持って廻ってくださりご協力いただきました。

このフラダンスチームは結成されて10年目になり、それ以来、骨髄バン



ク活動にもご協力いただいております。また、献血にもご協力いただいております。姫路だけではなく、神戸・淡路など幅広くイベントにも参加されており、これからも益々のご活躍をされることと応援しております。

後日、代表の高石弥生様よりご寄付も頂戴いたしました。

本当にご協力ありがとうございました。

(姫路地区骨髄バンク推進センター 濱田恵子)

千葉

幕張メッセ “どきどき” フリーマーケット 2024



幕張メッセで開催される「“どきどき”フリーマーケット」は、国内最大級のフリマで、毎年5月3日、4日、5日の3日間開催され、多くのお客様が掘り出し物を求めて来場します。今年は13万6千人のお客様が来られました。会場ではこのお客様を目的に日赤さんが献血を行うため、我々は併せて献血併行型登録会を開催しています。千葉の会ではコロナでフリマが中止になった2020、2021年以外2004年から毎年登録会を企画しており、今年で19回目になります。今回登録者は3日間で15人でしたが、説明員は普及啓発にも力を尽くしました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会会長 梅田正造)

私は昨年11月より説明員をさせていただいており、今回、このイベントには初めて参加させていただきました。今まで、プライベートでも「ど

きどき”フリーマーケット」に行ったことはなかったので、まずは規模の大きさ、出店数、そしてお客様の数に、圧倒されました。

普段、見たこともないような素敵な作品も多数販売されており、その空間はまるでアミューズメントに来ているような感覚で、来場されたお客様も、心躍る時間を過ごされていたのではないのでしょうか。そんな中、お買い物の合間をぬって、献血にいらっしゃる方も多く、中には骨髄バンクにご登録いただく方もおられ、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。私が参加した最終日(5月5日(日祝))には、千葉の会から説明員が8人参加し、骨髄バンクの説明及び登録を行う者以外

は、「Gift of Life」のリーフレットとポケットティッシュの配布を精力的に行い、骨髄バンクの普及啓発活動に励みました。立ち止まられることはなくとも、受け取られたティッシュをきっかけに、「骨髄バンク」を話題にしながら通り過ぎて行かれる方が多数いらっしゃる、それだけでも骨髄バンク普及に向けての貴重な一歩だと感じました。草の根運動にはなりますが、なんとなくでも頭の片隅に残り、何かをきっかけに説明を聞いてくださり、その先に1人でも多くの方の登録そして提供につながることを願って、これからも微力ではありますが、普及活動に尽力していきたいと思いました。

(相良 梢)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●4月21日~5月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	●募金箱	●つながる募金	●キモチと。
須藤 勝巳 現金 5,800円	株式会社 クスリのアオキ 現金 709円	株式会社 フクヤ 現金 1,372円	山本雅也ライブ募金 現金 21,004円
匿名 現金 1,000円	株式会社 マルト商事 現金 659,507円	株式会社 北越ケーズ 現金 90,796円	株式会社 洋伸 現金 39,357円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社 ナルックス 現金 3,797円		
●志村大輔患者支援基金			
森 千晶 現金 50,000円			

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。